

仙台城の懸造図(仙台市博物館『館蔵名品図録』より)

宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長 ひらかわ あらた 平川 新

未来への航路

家康、港灣調査を許可

1611年6月に来

日したメキシコ副王の使者ビスカイノは、太平洋貿易を求める家康と交渉を行いました。両者が考えていた貿易というのは、スペインの植民地であるマニラの植民地であるマニラを出航したガレオン船が関東の港に寄港し、そこで食糧を積み込んでアカプルコに向かうという方法でした。

⑱ビスカイノ、仙台に行く

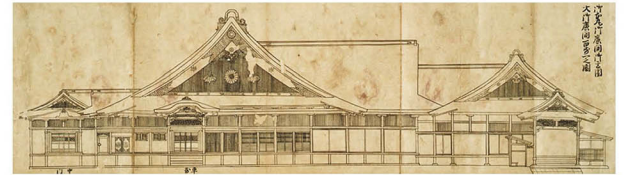
これまで、マニラを出港してから4ヶ月以上かけてアカプルコに直航していました。そのため大量の食糧を積み込まなければならず、その分だけ高い荷物を減らす必要がありました。ところが日本

められました。家康は大名たちに、ビスカイノが調査に来たら丁重に対応するよう通達を

やすことができるので、マニラ商人にとってもメリットがありました。

一方、家康側からすればマニラ船が寄港してくれば貿易ができます。貿易は生糸をはじめとする海外の珍品や貴重品をもたらしますし、大きな利益も得ることができます。寄港する側も、される側もメリットがあったのです。

ビスカイノは、最適な寄港地を探すために日本の沿岸調査をした



仙台城の本丸御殿図(上同)



仙台城模型(仙台市博物館)

出しています。ビスカイノは部下に西日本沿岸の調査を命じ、自分自身は仙台藩に向かいました。かねてより政宗と

は接触していましたが、政宗がメキシコ貿易に参入したいという希望をもっていたことを知っていたからで、11月8日に仙台に着いています。ビスカイノは日本滞在中のことを、スペインのメキシコ副王に『金銀島探険報告』として提出しています。

当時の日本の政治状況や、大御所家康や二代将軍秀忠、政宗とのやりとりなども詳細に書いており、当時の事情を知るることができる第一級の記録です。そこで以下に、政宗や仙台藩領について何が書かれているのかを紹介する(上)にします。

政宗は皇帝に次ぐ人物
ビスカイノは政宗について、この国最大領主の一人で、皇帝に次ぐ人物だと書いています。皇帝とは家康のことです。当時の日本では事実上のナンバー・ツリーの人物とみなしていたということです。戦国の修羅場を生き抜いてきた政宗は、外国からこうした評価を受けていたことには注目しておきたいと思えます。

政宗は皇帝に次ぐ人物

ビスカイノは政宗について、この国最大領主の一人で、皇帝に次ぐ人物だと書いています。皇帝とは家康のことです。当時の日本では事実上のナン



ひらかわ あらた
昭和25年、福岡県出身。東北大学名誉教授。3代目のサン・ファン館館長に就任した。

が、外国人からこうした評価を受けていたことには注目しておきたいと思えます。面会の日の朝、政宗は大勢の家臣をビスカイノの宿舎に派遣して、仙台城の城門にも多くの兵士を整列させて迎えました。政宗の歓迎ぶりがわかります。政宗はキリスト教に理解がある領主でしたから、ビスカイノも彼心を買ったために最高級の金欄やロンドン産の毛織物などを献上しました。貿易ができるようになったら、政宗もこうした品々を手に入れることができるようになるのです。期待は膨らましていると答えています。

東北大学災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26・31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料保全学。令和4年4月に、3代目のサン・ファン館館長に就任した。